

## 善玉菌で病原菌をやっつける

兵庫県では露地野菜の生産が盛んである。しかし、長年の連作により病気が発生しやすくなっている。なかでも菌核病は、近年、淡路や阪神地域のキャベツ・レタス産地で発生が増加している。従来の防除対策は化学農薬が中心であったが、環境創造型農業が叫ばれる昨今、できるだけ化学農薬を使わない防除法の確立が望まれている。そこで、新たな防除技術として菌核病菌(かび)を食べるかび(善玉菌)で防除を試みた。

### 内 容

キャベツ及びレタスの菌核病防除において、化学農薬使用量削減を目的に菌核病菌の拮抗菌である *Coniothyrium minitans* (コニオチリウム ミニタンス、商品名：ミニタン水和剤) 製剤の防除効果を室内検定で検討した。滅菌ジャガイモスライス上で培養した菌核を市販の園芸培土(与作N-150：片倉チッカリン) 1 L に対して20 g を混和し汚染土壌とした。検定は100ml容プラスチックビーカーに園芸培土(同上) 約70mlを充填後、汚染土壌を約20ml重ねて検定土壌とした。これにコニオチリウム製剤を 8 g / L (125倍) になるように希釈し、各ポットに5 mlずつ灌注し、表層土壌を攪拌した。攪拌後、ポットは人工気象器内(20℃)で1ヵ月間放置した。その後、各ポットにキャベツ「味春」及びレタス「サントス2号」の幼苗(本葉1~2枚)を定植し、発病を調査した。

その結果、キャベツ及びレタスとも同様に、発病

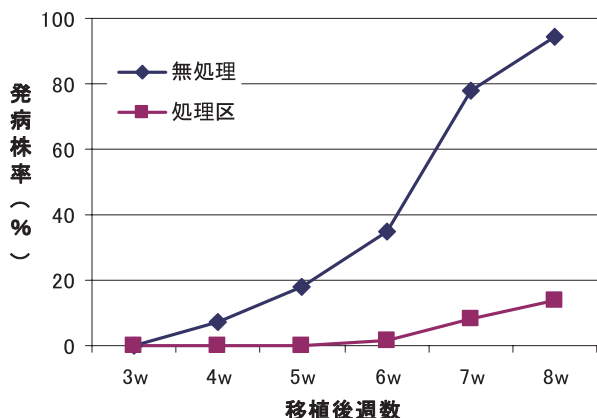


図 善玉菌のレタス菌核病に対する発病抑制効果

が抑制されたことから、菌核病の生物的防除の可能性が示唆された(図)。

そこで、場内の菌核病汚染圃場において栽培圃場での適応試験をキャベツ「味春」を用いて行ったところコニオチリウム製剤を施用した試験区の防除価は60~70であった(写真)。

### 今後の方針

さらに試験例数を増やして効果確認を継続して行うとともに、最も効果的で、かつ経済的な施用方法について検討を行い、本県の環境創造型農業の一助としたい。

岩本 豊 (環境・病害虫部)  
(問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 1222)



写真 圃場試験の様子